

い。温度が高い程、折目保持性がよくなる。一般にスプレー法で給湿した場合、折目保持性がよくなるが、テロンやカシミロンは殆ど水分の影響が認められない場合がある。

3. Wash and Wear に関する研究 (第1報)

アイロン掛けの条件が折目保持性におよぼす影響

椋山女学園大 名倉 光雄

成田 英子

水谷 浩子

1. 化学繊維の発達によって、衣生活が改善され Wash and Wear ということが最近の話題になっているが、これは、洗たくした場合、早く乾燥できること、形態安定性がよいことが必要である。それには、アイロンによってつけられた折目が湿潤乾燥後どの程度保持されているが重要な目安になる。それでまず化学繊維の織物について、アイロン掛けの条件(温度・時間・水分)が湿潤時の折目保持性におよぼす影響を比較検討する。

2. アイロン掛けの時間は10, 20, 40秒、温度はその繊維の許容温度において20°C間隔で3水準、水分はRH65%と100%で自然吸湿、スプレー法給湿の3水準とし、3×3ラテン方格法により実施した。アイロンにより折目をつけた試片をモノゲン0.5%水溶液に40°Cで1分間浸した後、室内で乾燥し24時間後に折目角を測定する。この場合、試片がねぢれているので低倍率の顕微鏡により、折目部分を極的に測角した。

3. アイロン掛けの時間が長い程、合成繊維は折目保持性がよくなるが、他は10~40秒では変化が認められな